



## 戦略の 三本柱

### これまでの取組

### 平成28～32年度5年間の取組 ／ソフト面での魅力アップ

## 課題

### 研究型植物園

#### 成果

- ◆世界有数の標本等の植物資源
  - ・ミャンマー産約25,000点
  - ・植物の有用分析サンプル約5000点
- ◆国内外のネットワークを活かした研究・調査による植物の活用、多様性の保全

#### 課題

- 研究成果や国際的に得られた評価等について、県内の産業振興や教育分野へ浸透させる
- 研究成果や豊富な資源を国内外の活用につなげる仕組みづくり

- 国際社会・文化への貢献
- 創薬等植物産業の発展
- 県内産業の振興

高知県内の希少植物の保全、ミャンマー等の生物多様性の解明、成果の公表

植物エキスライブラリーの有効活用、企業・大学との共同研究

土佐ブランド生薬の確立、牧野ブランド商品化

- 研究成果等の公開
  - ・研究成果の展示、研究施設の公開等
- 貴重な植物の適正保存
  - ・資源センターの有効利用（研究者、企業交流、オープンラボ）
  - ※南海トラフ地震対策
  - ・長江圃場（バックヤード）の高台移転等

### 教育・普及

- ◆牧野コレクションの適正管理
  - ・牧野博士関連資料のレプリカ化
  - ・標本データベースの制作等
- ◆教育普及
  - ・植物知識の普及、学校教育の資質向上

- 牧野植物園の研究成果を県内外に広く発信し、存在価値を認知させる。
- 牧野コレクションの一般公開
- 地域に根差した教育・普及推進

- 牧野博士の魅力・業績を再発信
- 地域に根差した企画・活動を推進

標本室の公開、展示替え等による牧野コレクションの公開

植物を楽しみながら学ぶ園内外での教室やキャンプ、コンテスト等の開催

地域や異分野との事業連携

- 牧野のお宝の一般公開
  - ・7千点を超える牧野富太郎博士の植物標本、植物画及び蔵書など
- オフシーズン（夏、冬）・雨天時対策
  - ・気候や天候に左右されない創意工夫・整備
- 参加・体験できる仕組み
  - ・体験学習・イベントの企画
  - 「学ぶ」「遊ぶ」「食す」等

### 憩いの場

- ◆県観光の4番バッターとしての定着
  - ・年間平均入園者数16万人（H23～26）

- 牧野植物園の強みである地形や景観の魅力を活かした園地の磨き上げ
- 入園者数が年々減少、期待される観光施設としての魅力アップが必要

- 既存園地の魅力向上
- 多様な催しの開催と基盤整備

園地植え付け型の植物管理

各種イベントの充実開催

インバウンドの受入強化

- 地形を生かした植物園の磨き上げ
  - ・園地拡張による広場の創出
  - ・園地の夜間照明による魅力創出
- 観光客の誘客
  - ・観光資源としての磨き上げ
  - ・インバウンド対策
- アクセス面
  - ・駐車場の確保 ・駐車場及び進入路の狭隘等



# 牧野植物園の課題～入園者数の推移等～

## ▼ 構成比

県内 8 : 県外 2

## ▼ 県内の利用者が多く、

中でも高齢者のリピーターが定着している。

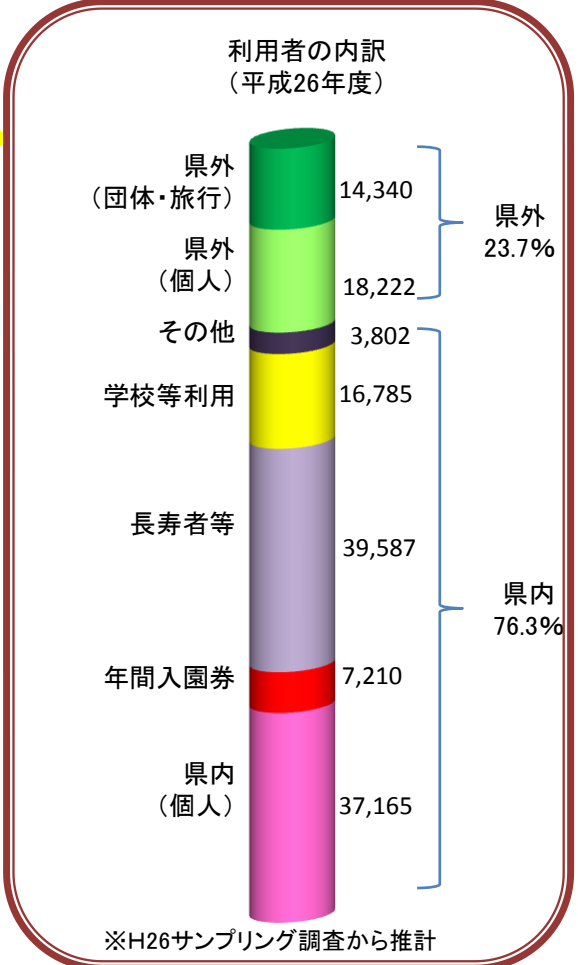
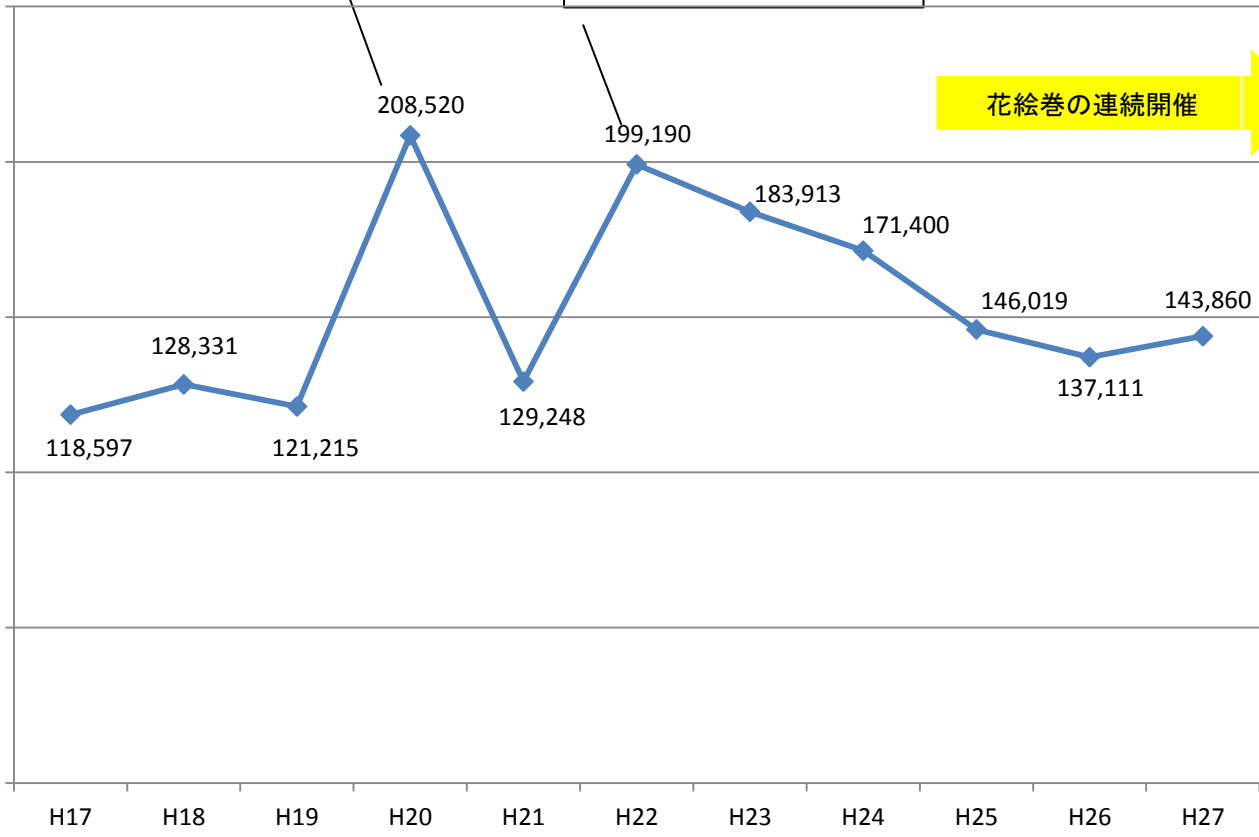
## ▼ イベントの集客効果はあるが、

マンネリ化すると集客数が減る。

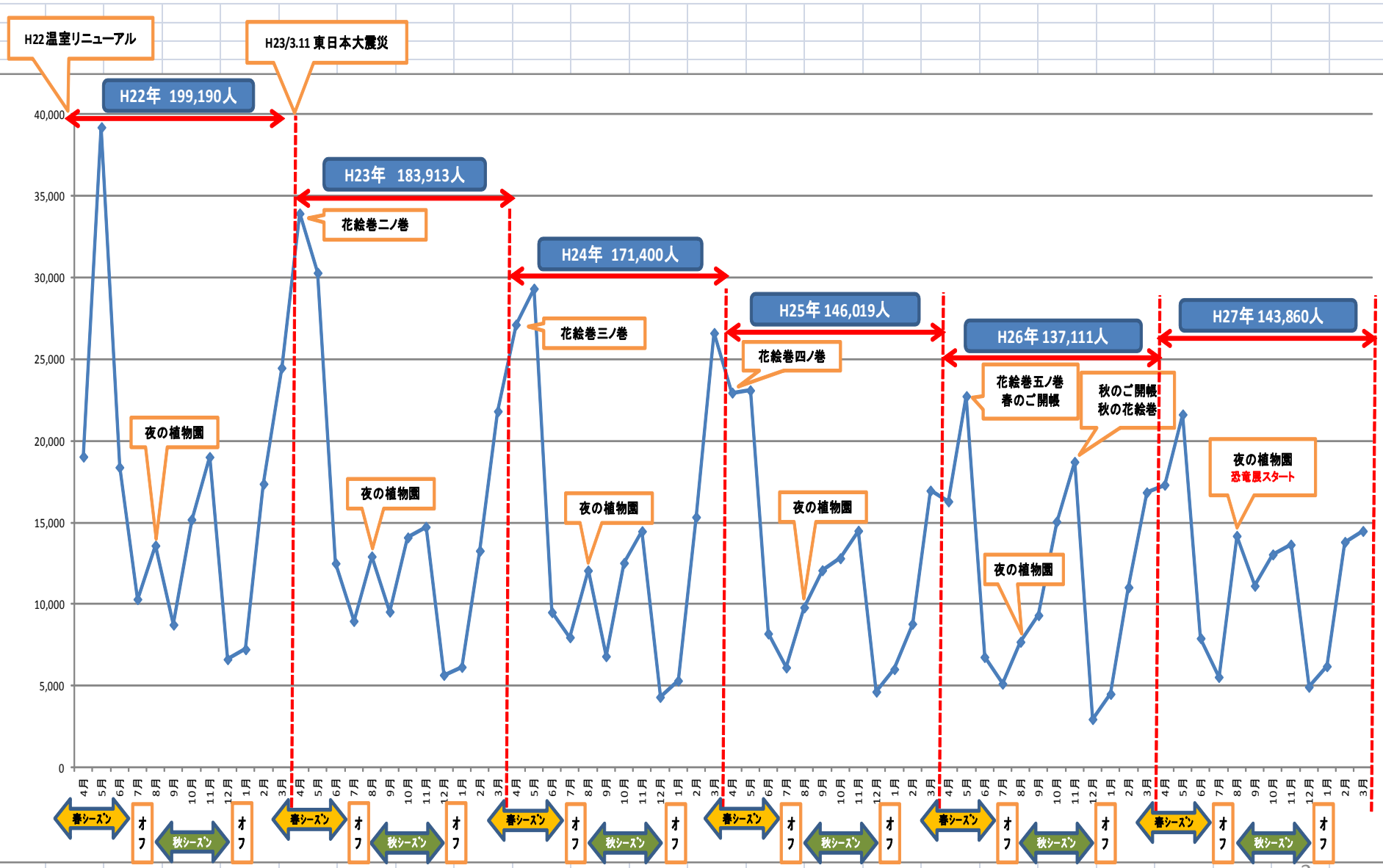
・50周年庭園の整備  
・花・人・土佐であい博  
・花絵巻スタート

・温室リニューアル  
-年間2万人UPを目指して-  
・入園料UP(500円→700円)

花絵巻の連続開催



# 牧野植物園の課題 ~入園者数の推移 月別~



### 課題 1 研究成果の公開

#### 【これまで】

#### ◆世界有数の標本等の植物資源

- ・ミャンマー産 約25,000点  
(近年のものでは世界一)
- ・植物の有用分析サンプル 約5,000点
- ・植物エキスライブラリー 約 700点
- ・国内外の研究・調査ネットワーク



#### 【課題】

#### ◆研究成果等の公開

##### ・研究成果の展示

- ☛ 研究成果や国際的に得られた評価を産業振興や教育分野への浸透

##### ・研究施設の公開

- ☛ 研究成果や豊富な資源を国内外の活用につなげる仕組みづくり

## 課題 2 貴重な植物の適正保存

### 【これまで】

#### ◆植物標本庫 [ハーバリウム]

- ・植物標本 約272,000点

#### ◆資源植物研究センター[研究棟]

- ・充実した研究・分析機器と薬用標本

#### ◆長江圃場[バックヤード]

- ・研究材料、園地への植栽・展示用  
約15,000鉢管理

### 【課題】

#### ◆植物標本庫 [ハーバリウム]

- ☛植物標本 約272,000点の公開

#### ◆植物資源研究センターの活用

- ☛研究者、企業交流、オープンラボによる開かれた研究施設

#### ◆長江圃場[バックヤード]の高台移転 [南海トラフ地震による浸水対策]

- ☛研究材料、園地への植栽・展示用の約15,000鉢の植物の保存管理



### 課題 3 牧野富太郎博士のお宝の一般公開

#### 【これまで】

#### ◆牧野コレクションの適正管理

- ・植物標本約5,500点  
牧野博士の植物画約1,700点
- ・所蔵資料[牧野文庫]約63,000点  
[寄贈45,000点]

#### ◆地域に根差した教育・普及の推進

- ・こども・小中高生→入園者数約20,000人

#### 【課題】

#### ◆牧野のお宝の一般公開

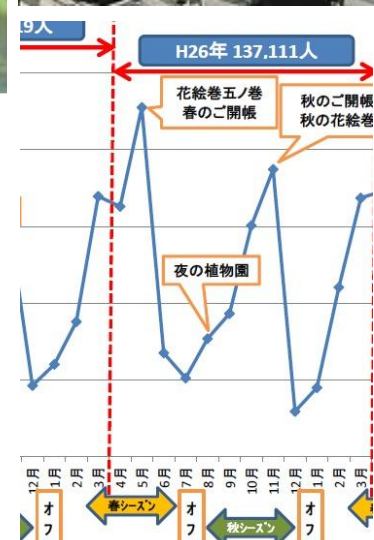
- ☛植物標本・牧野博士の植物画約7,300点・  
所蔵資料約63,000点の公開

#### ◆オフシーズン(夏・冬)と雨天時対策

- ☛気候や天候に左右されない創意工夫と整備

#### ◆参加・体験できる新しい植物園の仕組み

- ☛体験学習・イベントの企画「学ぶ」「遊ぶ」「食す」園地



### 課題 4 地形を活かした植物園の磨き上げ

#### 【これまで】

#### ◆県観光の4番バッターとしての定着

- ・地形と景観を活かした植物ゾーン
- ・年間平均入園者数16万人 [H23~H26]
- ・年々減少する入園者対策が急務



#### 【課題】

#### ◆既存園地(南園)を安全に安心して観賞できる園路の整備

#### ◆園地拡張による広場の創出

- ☛少年広場・芝生広場が狭小、景観の魅力の創出

#### ◆園地夜間照明による魅力創出

- ☛平成27年度 8日間での「夜間開園」→ 約9,900人



### 課題 5 観光客誘致[インバウンド対策]とアクセス改善

#### 【これまで】

#### ◆第二期駐車場整備

- ・県外観光客の入園者→約24%[県内76%]
- ・第2駐車場[H7]拡張→普通車195台・バス8台

#### ◆第31番霊場 竹林寺との連携

- ・五台山観月会[夜の植物園]連携→約2,400人(3日間)

#### ◆五台山公園との連携

- ・五台山公園駐車場との連携

#### 【課題】

#### ◆観光資源としての磨き上げ

- ☛五台山公園[風致都市公園]と竹林寺との連携強化

#### ◆インバウンド対策

- ☛クルーズ船→海外観光客誘致→Wi-Fi・多言語化

#### ◆アクセスの改善 [利便性の向上]

- ☛「第3駐車場の確保」と「南園入口狭隘道路」の改善

